

九州情報大学学術・教育研究所報

IIIS Academic and Educational Research Institute Report

第10号 令和8(2026)年3月

◆目次

【学術・教育研究所活動報告】

・令和7(2025)年度学術・教育研究所活動報告	…所長 秋吉 浩志	…1
・中小企業経営研究センター活動報告	…センター長 井上 善海	…1
・経営情報・データサイエンス研究センター活動報告	…センター長 荒平 高章	…2
・地域情報・生涯学習センター活動報告	…センター長 秋吉 浩志	…3
・国際交流センター活動報告	…センター長 クリス・フリン	…8
・学習支援センター活動報告	…センター長 鈴木 和也	…9
【学会開催報告】		
・ゲーム学会第24回全国大会開催報告	…現地実行委員長 荒平 高章	…10

【学術・教育研究所活動報告】

◆令和7(2025)年度学術・教育研究所活動報告

所長 秋吉 浩志 (准教授)

学術・教育研究所は、本学の教育および研究の発展に資するため、①学術研究部門に、中小企業経営研究センター、経営情報・データサイエンスセンター、地域情報・生涯学習センター、②教育学習部門に、国際交流センターおよび学習支援センターをおき、学内外の多様なフィールドで活動している。また、これらの成果を公表し、地域・社会に還元するため、③論集編集部門に、研究論集編集小委員会および所報編集小委員会をおいている。以下では、令和7年度の各センターの活動を報告する。(VoR)

・中小企業経営研究センター活動報告

センター長 井上 善海 (教授)

1. 中小企業経営研究センターの目的

中小企業経営研究センターは、中小企業経営に関する学術交流を行い、その研究成果を地域中小企業へと還元するとともに、中小企業経営研究の地域ネットワークの軸となり、あらゆる垣根を越えたコラボレーションにより“学びと社会連携”を推進することを目的としている。

2. 令和7年度の活動報告

(1) 研究成果の報告

以下の2名の客員研究員が、学会全国大会で研究報告を行った。

- ・岸泰正「経営者の形而上学的論理に関する一考察 —松下、稲盛を対象として」日本マネジメント学会第92回全国研究大会自由論題報告
- ・佐藤俊恵「ソーシャル・ビジネスの持続可能性に関する新たな理論的枠組み」日本マネジメント学会第92回全国研究大会自由論題報告 (優秀研究発表賞受賞)

(2) 研究成果の出版

以下の2名の客員研究員の研究図書が刊行された

- ・岸泰正『経営哲学と人間観』中央経済社、2025/12/25
- ・佐藤俊恵『日本のソーシャル・ビジネスの持続可能性』中央経済社、2026/2/5

(3) 包括連携協定

九州の中小企業関係の経済団体との連携を進め、下記 2 団体との包括連携協定締結を行った。

- ・公益財団法人九州生産性本部
- ・公益財団法人くまもと産業支援財団

(4) 中小企業診断士登録養成課程の申請準備

国家資格である中小企業診断士の第 1 次試験合格者を対象とした「登録養成課程」について、令和 9 年度の設置を目指し、経済産業省中小企業庁への申請準備を進めた。

3. 令和 8 年度の活動計画

令和 7 年度に引き続き、令和 8 年度は下記の活動を予定している。

- (1) 客員研究員の研究成果報告及び研究成果出版
- (2) 九州の中小企業関係の経済団体との連携
- (3) 中小企業診断士登録養成課程の設置 (VoR)

・経営情報・データサイエンス研究センター活動報告

センター長 荒平 高章 (教授)

1. 令和 7 年度の活動報告

今年度は、学術研究活動を推進するために試行的に以下の活動を実施した。

- 1) データ分析等に係る協力企業先の調査研究
- 2) 経営情報・データサイエンス研究センター共催での学術大会の開催

1)に関しては、センターを立ち上げた年度より継続的に実施している事項である。具体的にはキャリアデザインセンター (CDC) に協力企業の情報提供等を依頼することに加え、学内の講義等で訪問された企業の情報等を調査した。また、昨年度に引き続き高等学校における DX ハイスクール認定校の調査を実施し、本学との高大連携に向けた活動を模索した。

2)に関しては、2026 年 2 月 28 日～3 月 1 日に九州情報大学で実施されたゲーム学会第 24 回全国大会に共催として本センターが参画した。データサイエンスに関連する研究発表を本学学生に実施させたほか、大会運営について本学学生が主体となって行った。このような経験が在学生の研究活動の活性化につながり、地域貢献にもつながると考えられる。また、当該大会では、高等学校にも取り組み事例を紹介してもらった新たな試みを導入した。

2. 令和 8 年度の活動計画

次年度の活動計画として、引き続きセンターの設備等を含めた基盤整備を継続し、実際に外部企業や大学・高等学校等も含めた協力体制の確立、さらには共同研究等へつなげていくことでセンターの活性化を図る。また、他大学の研究者や企業の方々を交えた研究会や交流会の計画・実施、学内の研究者による研究会や交流会、共同研究等のネットワーク構築なども視野に入れた活動を展開していきたい。さらに、各センターとの連携も行っていく予定である。(VoR)

・地域情報・生涯学習センター活動報告

センター長 秋吉 浩志（准教授）

一昨年より地域情報センターと生涯学習センターが合併し、「地域情報・生涯教育センター」として、本学の研究・教育の成果を地域の教育文化の発展向上のために還元するとともに、幅広く社会に貢献することを期して活動している。

主な活動は、第一に生涯学習を主旨とする各種公開講座の実施である。特に地域のシルバー層をメインターゲットとする e スポーツ体験会の開催である。第二に従来から行っている太宰府市立水城小学校「パソコンクラブ」への学生サポートの派遣である。

以下では、もともと両センターの事業を引き継いだものも含めて、新たに始動した事業を加えて、本年度に開催した事業、講座ごとに報告を行う。

1. 公開講座の企画・開催の概要

令和7年度は、情報系12講座、語学系4講座、自然科学系2講座、スポーツ系2、その他1の計21の公開講座を企画した。なお、情報系の講座を見直し、昨年度より情報系の新たな流れを取り入れ、生成AIやデータ分析系に関する講座を増やし、「Aiを体験してみよう!」、「画像生成AIを使ってオリジナルのアイコンを作ろう!」、「いろいろなデータを使った分析をしてみよう!」、「Blenderで簡単なモデルを作ってみよう!」など、ユニークな講座を開講した。これらの講座の回数は15日(15日間)、受講者総数は延べ180名(113名)であった(括弧は昨年度の実績)。

下表にあるとおり、「全世代交流 e スポーツ体験会」は、2日間で100名の参加者があったため、全体的な受講者数は前年度より増加している。しかし同体験会の両日も、本学の学園祭の開催日であったため、「e スポーツをする」というよりは学園祭への来訪をそもそもの目的とした方々が多かったのではないかと思われる。

令和7年度の公開講座は前年度よりも増加したが、各講座を見てみると、以前よりも受講者数が減少している講座が見受けられる。その一因としては、太宰府市が刊行していた広報誌「太宰府キャンパスネットワーク情報」が一昨年から廃刊になってしまったことがあげられる。同誌では、太宰府市内の教育機関が開催する公開講座等の日程や内容等が掲載されていたため、公開講座の広報媒体として役に立っていた。たいがいの教育機関が、ホームページを通じて、公開講座を告知することに努めているが、どうやらそれだけでは不十分のようである。

以下の表は令和7年度の公開講座の詳細である。

令和7年度 公開講座の実施・開講の一覧

種別	講座名	開催日	時間	受講者数	講師	学生サポート人数
料理	荒平ゼミシリーズ③ 「コーヒーについて知ろう！」	5月17日	土 13:00-15:00	中止(-)	-	-
語学	「英検」面接試験 対策講座(1)-①	6月21日	土 10:00-12:00	2(4)	教員	0
	「英検」面接試験 対策講座(1)-②	6月28日	土 10:00-12:00	2(4)	教員	0
科学	夏の星空観察会	9月17日	水 19:30-21:00	中止(17)	-	-
情報	荒平ゼミシリーズ① 「AIを体験してみよう！」	5月17日	土 10:00-12:00	中止(-)	-	-
	荒平ゼミシリーズ② 「KH coderで物語を分析してみよう！」	5月17日	土 10:00-12:00	中止(-)	-	-
	画像生成AIを使ってオリジナルのアイコンを作ろう！	6月21日	土 13:00-15:00	2(-)	教員	2
	荒平ゼミシリーズ④ 「いろいろなデータを使った分析をしてみよう！」	6月28日	土 10:00-12:00	中止(-)	-	-
	荒平ゼミシリーズ⑤ 「Blenderで簡単なモデルを作ってみよう！」	7月5日	土 10:00-12:00	中止(-)	-	-
	はじめてのパソコン ～ワード前編～	9月9日	火 10:00-12:00	1(13)	学生	2
	はじめてのパソコン ～ワード後編～		火 13:00-15:00	1(14)	学生	2
	はじめてのパソコン ～エクセル前編～	9月12日	金 10:00-12:00	2(14)	学生	1
	はじめてのパソコン ～エクセル後編～		金 13:00-15:00	2(14)	学生	1
	荒平ゼミシリーズ⑥ 「プログラミングで簡単なゲームを作ってみよう！」	10月25日	土 10:00-12:00	1(-)	学生	1
	荒平ゼミシリーズ⑦ 「RaspberryPiを使ってセンサを動かしてみよう！」	10月26日	日 10:00-12:00	6(-)	学生	3
	全世代交流 e スポーツ体験会	10月25日	土 10:00-15:00	50(-)	教員	3
		10月26日	日 10:00-15:00	50(-)		3
	語学	「英検」面接試験 対策講座(2)-①	10月25日	土 10:00-12:00	9(6)	教員
「英検」面接試験 対策講座(2)-②		11月1日	土 10:00-12:00	9(6)	教員	1
	かけっこ教室 日本トップレベル の選手に走り方を学ぼう	10月25日	土 11:00-12:00	7(-)	学生	2
		10月26日	日 11:00-12:00	24(13)		2
科学	冬の星空観察会	2月4日	水 19:00-21:00	12(-)	教員	6

2. 学生講師・学生サポーターが情報系講座を担当

地域情報・生涯教育センターの情報系の公開講座は、積年にわたって本学学生が講師を務めてきた。またほぼすべての講座において、学生が受講生のサポートや講師の補助を担当している。

情報系の講座の場合、講師担当の学生は、講座のテキストを自ら作成し、そのテキストを使用しながら、サポーターの学生とともに、講座の運営にあたる。これは本センターの公開講座の独自の特徴であるといえる。パソコン関連講座の場合、受講生1～2名に対して1名の学生サポーターが付いて、随時懇切丁寧な支援を行うため、受講生の理解も円滑に行わ

れる。

こうした要因からか、本センターの情報系講座の評判は非常に高い。受講生は概ね、講座の内容や運営に満足していることが、受講後に実施したアンケート結果からも窺える。

しかし、これは毎年の傾向ではあるが、公開講座の講師やサポーターを務める学生人材の確保が困難になってきていることが当面の課題である。本学全体の学生数が減少してきたことにより、同一学生が繰り返し講師・サポーターを務めなくてはならない場合が引き続き増加している。それぞれの公開講座の講師・サポーターを、限られた少人数の学生に対して依頼せざるを得ない状況が続いている。しかも、講座開催時間と履修授業が重なっていることも多いため、やむを得ず講師・サポーターを務めることを断念せざるを得ない学生も見受けられる。そのため以前、講師・サポーターを経験した上級生（4年生）や大学院生に頼らざるをえない状況である。このことは、講師・サポーターの世代交代がスムーズに運ばない事態を招いている。

本センターの公開講座は、情報系を中心として、本学学生の知識技能の定着化や「情報」の教職等のスキルアップ、キャリア形成、に寄与している部分も多いため、学生人材の養成は今後の公開講座運営に向けての大きな課題の一つである。

3. 本学教員による公開講座の新設・増設

上記表のとおり、令和7年度は、昨年度に引き続き本学の教員が講師を務める公開講座にも力を入れた。

語学系の「英検」面接対策講座は、従来からクリス・フリン教授が担当しており、インタラクティブな講義形態と本番の面接試験さながらの個別指導も交え、受講生からは高評価であった。そのため年4回開講した。特に中学生・高校生の参加が多かったのも、この講座の特筆すべき特徴である。

また、これも毎年開催されている秋吉浩志准教授による「星空観察会」も地域貢献に資する試みであった。本学の天文サークル「だざいふ星空研究会」の学生もサポーターとして参加し、年2回（9/17、2/4）企画・開催された。9月当日は開講時刻直前にあいにく天候が悪化し、中止となった。その一方、2月の観察会は、天候にも恵まれ、無事開催することができた。今後も天候等を考慮しながら開催する予定なので、充実した講座になるよう努力していく。

スポーツ部門の「かけっこ教室」は昨年新設された公開講座であるが、令和7年度は本学の学園祭のあいだに2回にわたり開催することができた。同講座の参加者は小学生が中心であったが、本学の陸上部監督が講師を務め、陸上部学生がサポートを行い、走り方の基本や楽しんで走るることについて、やさしく丁寧に指導することを心がけた。

令和7年度において顕著に増えたのは、AI・データサイエンス系の講座である。これらの講座は主に学生が担当し、それぞれの取り組みもユニークであり、今後の公開講座の方向性と多様性の可能性を広げてくれた。

先に述べたように地域情報・生涯学習センターの活動は、本学の研究・教育の成果を地域の教育文化の発展向上のために還元するとともに、幅広く社会に貢献することを目的としていることを踏まえるならば、公開講座のさらなる充実については継続的課題である。上述のAI・データサイエンス系の講座の開設などは、意義深い成果であると考えられる。来年度も積極的な活動を行っていきたい。

4. 水城小学校「パソコンクラブ」への学生サポーターの派遣

平成 25 (2013) 年度から始まった太宰府市立水城小学校の「パソコンクラブ」(月曜日 6 時間目)への学生サポーターの派遣事業は、もともと太宰府市教育委員会生涯学習課(当時)の要請によるものであり、令和 7 年度で 13 年目を迎えた。初年度は、同小学校・本学とも児童支援のあり方をめぐって模索の状態であったが、3 年目からサポーターとして参加した本学の学生達が立案・実施の主体となって、実際の運営を任されるようになった。それに伴って、学生の参画主体としての自覚も育つようになってきたように思われる。

学生サポーターの派遣にあっては、地域情報・生涯学習センターの人材バンクに登録した者に依頼しているが、その際、教職課程履修者に重点的に声をかけている。そのような学生にとっては、この事業への参加は教育実習の「予行練習」としての意味も持つようである。

本年度、水城小学校パソコンクラブへサポーターとして派遣された学生は、延べ 15 人(6 回派遣)であった。学生サポーターの活動内容は、小学生の情報リテラシーの向上や小学生の要望を考慮して、一昨年度より内容を改変し、よりスキルの高いプログラミングや AI リテラシーに関する実習を行った。実習形態としては、全体進行を担当する学生と個別の児童をサポートする学生とに役割を分担し、児童一人ひとりに寄り添うサポートを行った。来年度の課題は、やはり昨年度同様に学生サポーターの確保と世代交代の円滑化、そして活動内容のさらなる充実・創意工夫である。

令和7年度 水城小学校パソコンクラブへのサポート状況

日程	活動内容	児童数	学生数	日程	活動内容	児童数	学生数
1 5/27	タイピング練習	27 (27)	2 (2)	5 12/9	エクセル お小遣い帳	中止 (26)	0 (3)
2 9/1	ロボットを動かそう プログラム作成	31 (26)	3 (1)	6 2/2	パワーポイント 自己紹介作成	31 (-)	2 (-)
3 10/6	ロボットを動かそう プログラム作成	31 (26)	3 (2)	7 2/9	パワーポイント 自己紹介発表	31 (-)	2 (-)
4 11/4	ロボットを動かそう プログラム作成	31 (26)	3 (2)				

(括弧は昨年度の実績)

5. 「甌島アイランドキャンパス」の取り組み

この事業は、平成 24(2012)年より行われているもので、鹿児島県薩摩川内市の甌島における島民と本学学生との交流事業(運動会への参加や現地小中学校との交流など)を主たる内容とするものである。この事業は、令和 7 年度で 14 年目を迎えるはずであった。例年 9 月末に行われる瀬々野浦地区の運動会への本学学生の参加や現地の産業の振興に尽力している方々から体験談を伺うことなど、現地でのみなしうることのできる貴重なフィールドワーク体験をしてきた。ところが事情により、令和 6・7 年度の「アイランドキャンパス」の実施は見送ることとなり、あらためて再開を期すことになった。

他方で令和 7 年 10 月 25・26 日に開催された本学の学園祭において、学生と甌島の住民との共同プロジェクトとして「甌島フェア」を開催することができた。これは甌島の特産品タカエビ、キビナゴなどの販売をとおして、甌島を多くの方々に知ってもらう取り組みである。このフェアが、次年度以降の「アイランドキャンパス」の再開とさらなる発展に繋がっていくための契機となるものとして考えている。

6. 各種 e スポーツ体験会の本格的実施

令和 6 年度から学生の部活動組織である e スポーツ部が主体となり、地域に対する e スポーツの普及と支援を積極的に行っている。いままでの活動が徐々に市民に認識され、主に市内各地区老人会からの依頼で、太宰府市内のシルバー層の体験会を公民館単位で開催し

た。

e スポーツのイベントは、開催されるたびにそれが評判となって、老人会などから開催依頼が増えている。今後は規模にもよるが、開催回数が増加が見込めるため、イベントに参加する学生の確保や最新の機材等の確保が急務となるであろう。なお本学では、九州の他の大学に先駆けて本格的な e スポーツ施設「九州情報大学 e スポーツアリーナ」を開設しており、同施設を利用した幅広い年代層の体験会を開催することも可能である。

下表のとおり体験会の開催にあたっては、県立太宰府高校や私立筑紫台高校からもサポーターとして生徒が参加した。こうした生徒は本学の学生とともに、体験会参加者がゲーム機を操作する際の支援や会場準備などに携わった。これは、情報大学としての本学の特性を發揮した‘高大連携’の試みとして、特記しておきたい

本年度、地域情報・生涯教育センター主催や太宰府市との共催、または太宰府市主催のイベントに参加して開催した学外での e スポーツ体験会は以下のとおり。

令和7年度 主な e スポーツ関連イベント

※おおよその人数

イベント名	期日	場所	参加者数	サポーター数	主催、共催など
こども福祉体験 2025	2025年10月 5日(日)	大宰府市社会 福祉協議会	太宰府市内の 選抜された小 学生30名お よび保護者30 名	九州情報大学 8名(教員3 名) 太宰府高校4名 筑紫台高校2名	大宰府市社会福 祉協議会
九州情報大学 学園祭「紫苑 祭」	2025年10月 25日(土)、26 日(日)	太宰府キャン パス	地域の参加者 100名	九州情報大学8 名(教員3名)	
シルバー層向 け e スポーツ 体験会	2025年10月 28日(火)	大宰府市五条 台公民館	地域の参加者 30名	九州情報大学10 名(教員3名)	地域情報・生涯 教育センター
シルバー層 e ス ポーツ体験会	2025年11月 15日(日)	大宰府市東ヶ 丘公民館	地域の参加者 30名	九州情報大学8 名(教員3 名) 太宰府高校6 名	地域情報・生涯 教育センター
太宰府キャン パスフェスタ	2025年12月 14日(土)	大宰府市いき いき情報セン ター	参加者150名 程度※	10名(教員3 名) 太宰府高校3 名	大宰府市国際・ 交流課
シルバー層 e スポーツ体験 会	2026年2月 21日(土)	太宰府市シル バー人材セン ター	地域の参加者 24名	九州情報大学6 名 (教員3名)	地域情報・生涯 教育センター

7. その他

以上のほかに本センターの活動として、太宰府市商工会の情報発信事業「だざいふなび」への支援活動があげられる。これは、地域の店舗・企業のホームページや SNS などの編集作業等をサポートするものであり、本学学生が積極的に参加していた。この活動は、情報発信

の教育の一助となるとともに、‘情報大学’としての本学の存在意義を地域にアピールする点で意義のあるものであったと言えるだろう。しかしコロナ禍を機に2020年度(令和4年)に一旦活動を休止し、担当指導教員である本センター長が理事会に継続的に参加するのみで、残念ながら本年度も学生が参加する活動までは至っていない。

8. まとめ

令和7年度の地域情報・生涯学習センターの活動は、特に公開講座ではAI・データサイエンス系の新設講座、継続的なeスポーツ体験会など、学内外活動も増えてきている。来年度4月からの活動も諸状況を見定めながら行わざるをえないが、ともあれ上記の活動をできるだけ継続し、そしてX、Instagram、Facebook ページ等のSNSも有効に活用しながら、地域情報・生涯教育センターの諸活動を積極的に情報発信していきたい。(VoR)

・国際交流センター活動報告

センター長 クリス・フリン (教授)

国際交流センターは、地域の文化向上の一翼を担うべく、太宰府市の国際交流事業を中心に積極的に活動している。以下に令和7年度の活動概況を報告する。

○太宰府市国際交流協会が主催する事業

・「フレンズベルのつどい」への参加

令和7年6月22日(日) 教員1名、学生5名 (留学生や在留外国人による交流など)

・「国際理解講座」における講演 令和7年8月24日(土) 教員1名

・「世界文化体験講座(中華料理教室)」への参加

令和7年9月24日(土) 教員1名、学生5名

(太宰府市民と太宰府の留学生と一緒に中華料理を作る。)

・「太宰府市政庁まつり」への参加 令和7年10月4日(土) 教員1名、学生3名

(市民に対する国際交流協会の活動の啓発、留学生との交流)

・「国際文化体験(熊本)」への参加

令和7年12月6日(土) 教員1名、学生8名

(熊本城、水前寺成趣園等の歴史研修)

・「留学生フォーラム」への参加

令和8年2月7日(土) 教員1名、学生6名

(講演:外国人のための賃貸住宅入居、就職のための在留資格や入管手続き、日本で生活するために支払うお金)

以上のほかにセンター長フリンが、太宰府市国際交流協会の理事会に4回、運営委員会に9回出席した。

○学内イベント

「クリスマスパーティー」の開催

令和7年12月17日(水) 教職員若干名、留学生・日本人学生およそ120名

(留学生が郷土料理を提供、その他イベント)

以上のとおり国際交流センターは、留学生と日本人学生との相互理解、および地域社会との交流促進のための役割を担ってきた。今後とも積極的に活動していきたい。(VoR)

・学習支援センター活動報告

センター長 鈴木 和也（准教授）

1. 学習支援センターの目的

学習支援センターは、基礎総合科目・リメディアル学習などの相談と支援及び資格・検定試験の相談と学習支援を目的としている。

2. 令和7年度の活動報告

本年度は、以下の活動を実施した。

(1) 学生による「学習相談」の実施

一昨年度より本センターの活動として実施している、学生による「学習相談」を本年度も実施した。年間をとおして定期的に開催することが望ましいが、本年度は2回開催することとなった。1回目は12月1日（月）に実施し、2名が相談に訪れた。2回目は、1月21日（水）に実施し、3組5名の学生が相談に訪れた。本年度は、教職課程を履修している2年生と3年生の学生に学習相談担当の役割を担ってもらった。2回の活動をとおして7名の学生が実際に相談に訪れてアドバイスを受けていた。実施前に学内掲示で活動の案内を行っていたが、利用者が少なかった点が今後の課題であるといえる。引き続き来年度も活動を継続していきたい。

(2) 留学生のための「学校生活ハンドブック（仮称）」の作成

近年の本学における留学生の増加、とりわけ東アジアや東南アジアの国からの留学生が目立つようになってきた。なかでも、ネパール（ネパール連邦民主共和国：Federal Democratic Republic of Nepal）出身者の割合は群を抜く。留学生の多くは、本学入学前に本国や日本国内の語学学校で日本語の習得を十分に行ってくるが、実際は、言葉の壁が高いため、学生生活でも戸惑うことが多いのが実情である。そのような学生の不安を取り除くための取り組みとして、大学で学業を送るにあたって必須となる日本語の用語や言葉をネパール語で表記した「ハンドブック」の作成を検討した。現在は構想段階であるが、日本語教育担当の教員とともに、当事者である留学生の目線から内容を検討し、具体的な成果物として仕上げていく予定である。来年度も引き続き活動を継続していく予定ある。

(3) 「発達障がい・社交不安をもつ学生に対する支援場面集（教職員向け）」の作成

本学においても、新たに入学してくる学生の中に「特別な教育的支援の必要な学生」（いわゆる発達障がいを抱える学生）が多く見られるようになってきた。事前に保護者や本人から入学時に申し出があった学生については、教務課や学生課で把握することが可能であるため、個人情報に配慮をしつつ先生方に随時情報提供を行っている。しかし、自身の障がいについて十分に把握していない学生やすでに情報を申告して自身の障害の状態を理解している学生においても、学内での生活や人間関係で不安などを感じたり、特異な行動や発言をする場面が見られることがある。講義中にこうした状況に遭遇するとどのように対処したよいか戸惑う先生方も多いはずである。そこで、具体的な事例をいくつか挙し、Q&A方式で対処の仕方を紹介した「支援場面集」（教職員向け）を作成した。この資料は、今後も増えていくであろう「特別な教育的支援の必要な学生」にどのように対峙していくのが適切なのかを提示したものである。現在は事例数も少ないため、来年度も引き続き作成をすすめて、学生支援の「バイブル」として役立てていただけるようなものにしていきたい。

3. 令和8年度の計画

令和8年度は、令和7年度に引き続き、以下の活動を計画している。

(1) 学生による「学習相談」の実施

- (2) 留学生のための「学校生活ハンドブック（仮称）」の作成
- (3) 「発達障がい・社交不安をもつ学生に対する支援場面集（教職員向け）」の作成
(VoR)

【学会開催報告】

◆ゲーム学会第24回全国大会 開催報告

現地実行委員長 荒平 高章（教授）

2026年2月28日から3月1日にかけて、九州情報大学太宰府キャンパスにてゲーム学会第24回全国大会が開催された。事前登録者29名に加え、当日参加3名の合計32名が全国各地から参加された。本大会では、「ゲーム×サイエンス」というテーマのもと、産学連携や高大連携を意識した特別企画を計画・実施した。昨年度の実績と比較すると、発表件数はデモ・ポスター発表、一般研究発表ともに増加しており（表1）、本大会のテーマに関連する様々な演題が集まった。特に、企業による招待講演では、実際のゲーム業界についての話に大学生や高校生は非常に熱心に聞いていた。また、高校生によるゲーム関連取り組み事例デモ・ポスター発表では、はじめは緊張した様子だった高校生も、最後の方は自信をもって発表する様子が垣間見え、引率の教員からは貴重な経験をすることができたと好評であった。

今年度は本学独自の試みとして高校生による取り組み事例発表を取り入れた。卒業式等の日程と重複したこともあり、十分な参加校数は達成できなかったが、参加校からの評価は高かったことから、今回の取り組みをロールモデルとして次年度以降の全国大会も様々な取り組みを企画し、大学生や若手研究者の活躍の場を提供していくことを期待する。

表1 昨年度実施の全国大会との比較

	第24回全国大会	第23回全国大会
デモ・ポスター発表[件]	5	3
一般研究発表[件]	11	8
特別企画	<ul style="list-style-type: none"> ●企業による招待講演 招待講演①「ゲーム会社に求められるクリエイターとは」 講演:株式会社サイバーコネクトツークル取締役副社長 宮崎 太郎 氏 招待講演②「ゲーム業界で働くという選択 ～キャリア形成と採用のリアル～」 講演者:株式会社オーツークル 人事部 リクルートメントセッション 山下 忠範 氏 ●高等学校の学生によるゲーム関連取り組み事例デモ・ポスター発表 嘉穂総合高等学校、純真高校、筑陽学園高校 	パネル討論「ゲームは情報科学を活性化しているか」

ゲーム学会第24回全国大会の詳細については、次年度の研究論集もしくは研究所報で報告予定である。(VoR)

◆原稿募集

教員各位の教育・研究活動に関する原稿を募集します。たとえば教育・研究報告、学会報告、書評、文献紹介、翻訳などです。『研究論集』に掲載するほどの分量はないが、論文執筆のための準備作業として書き留めておきたいこと、日頃の教育・研究に関連して思うことなどでも結構です。ただし『研究論集』との違いを明確にするため論文は掲載しません。なお、原稿の作成・提出にあたっては、「九州情報大学研究論集編集・発行基準」「九州情報大学研究論集執筆・投稿要領」を遵守してください。詳細は学術・教育研究所までお問い合わせください。

九州情報大学学術・教育研究所報 第10号

発行日 令和8(2026)年3月31日

発行所 九州情報大学学術・教育研究所報編集小委員会

〒818-0117 福岡県太宰府市宰府六丁目3-1

TEL 092-928-4000

※掲載された原稿の著作権は本学に帰属します。
無断引用を禁止します。